

ちゅうふの自然だより

ちゅうふ環境市民会議 <http://chofu-kankyo-shimin.org> 発行部数：1000部

春の野川はさらさらいくよ



野川にもライギョ！
顔のあたりは鳥につつかれたか。



息も絶え絶えのクチボソ(モツゴ)



3月31日 全く別の表情を見せる野川。
「そぞろ歩き」のときがうそのように華やか。河原は花見の人たちでにぎわう。



一足先に花を咲かせたのはセイヨウカラシナ。セイヨウカラシナとよく似るが葉の付け根が茎を抱く。

3月15日、環境モニターの「そぞろ歩き」で案内役の戸部先生から地形を含めた野川の成り立ちをお聞きする。
野川は多摩川が蛇行した低地にできた川で源流は国分寺市内の湧き水だが、崖線の湧水が流れ込む他、現在は少し下流では仙川や入間川などの処理された下水も入るし、調布あたりでも大雨が降ると処理されていない下水が混ざってしまうことなど。

御塔坂少し下流でサイクリングロードから河川敷に降りると、澄んだ水で川底がくつきりと見える。だが数日前に降った雨で、立木にはゴミがひっかかっていた。河原には小さな水たまりが残り、驚いたことにクチボソがじっとしている。本流から取り残されてしまったのだろう。そつとつかんで本流に戻す。そしてその先にはひからびたライギョ、ひからびたクチボソの群れ。

小学生が小さなシャベルで何やら掘り起こしているのが先生が声をかけた。「何してるの？」
「タンポポの根を掘って胃薬にしようと思つて…」
「根っこは干して煎じるとタンポポコーヒーになるんだよ」「ふん、ありがとうございました」
(※胃薬にはなるってホント?)
河川敷にはセイヨウカラシナの葉が目立ち、全体に青々とした春の雰囲気。桜の季節も近い。

コサギ

調布の生き物 鳥編

野川を歩いていると1羽の白鷺がじっとエサを待っているのかと思つたら、突然走りだし首を伸ばして水の中に嘴を入れたり、歩きながら片足を水の中で震わせ小石の陰の生き物を追い出したりとさまざまなエサの取り方をする。主食は魚で他にザリガニ、カエル、昆虫だがエサの取り合いでグエーッグエーッと声を出して激しいケンカをしたりする、それがコサギです。

意外と易しい識別のポイント

①嘴と足は年中黒い：足の指は黄色いのでイエロースリッパともいわれる。

②後頭部に大きな飾り羽・胸と背中に蓑状の飾り羽がある。(冬は目立たないし幼鳥にはない)

③目は黄色いが婚姻色は赤っぽい。

④飛ぶときは首をくの字に曲げ足の黄色い指が尾羽より飛び出して伸びており良く目立つ。

野川は肉眼でも野鳥が観察できるの素晴らしいトリ見スポットですよ。

(環境モニター)

里厚雄



花の履歴書 26

戸部英貞 (絵・文)

ニリンソウ (二輪草) キンポウゲ科



Anemone flaccida Fr.Schm.

およそ一万年前の氷河期の終焉 スプリングエフェメラルたちにとっ
に伴い、関東地方は落葉広葉樹林で、雑木林は絶好の環境ともいえ
から照葉樹林の極相林に遷移する 早春には数え切れないほどたくさん
環境の中で、石器時代から縄文時 妖精たちで賑わっている。そんな
代の人類たちの手によって落葉樹 中の一つがニリンソウである。
林が維持されたのが、武蔵野を代 名が示すように3深裂した3枚の
表する里山と呼ばれる雑木林の始 葉を輪生し、その中央から2本の長
まりだ。 花茎をだし、先端に白い花を咲か
クヌギやコナラなどの落葉広葉 せるが、決して二つの花が同時に咲
樹で構成され、縄文時代より人々 くことはなく、少しずれて開く。
の手により萌芽再生を繰り返す、 山麓の林や竹林、など春先に林床
独特の生態系を構成してきた。こ の明るい場所を好んで大きな群落を
の樹林を構成する木々が落葉した 作っている。開発が進んだ都会でも
晩秋から早春までの間、光が差し 各地に残されており、板橋区では区
込み林床は明るい。 の花として保護されている。国分寺

こんな樹木が葉を展開するまで 崖線にも各所に自生するがその量は
のわずかな期間に花を咲かせ、葉 決して多くはない。早春のニリンソ
が展開して林床に日が届かなくな うは山菜としても利用されるが、花
る頃には葉を枯らし休眠してしま の出る前の根生葉はトリカブトによ
う植物群を欧米ではスプリングエ 似ており、間違つて食べ、食中毒
フェメラル (Spring ephemeral) を起こす事件が毎年報道されている
と呼んでいる。直訳的には「春の ので注意が必要だ。市内にも自生地
儂いもの」「春の短い命」という意 があるが、山菜としてではなく「春
味だが、早春の林床を飾る「春の 妖精」として保護していきたい。

昭和の初め頃、そこは千町耕地と呼ばれた広い田畑。 子供達は小魚とりに夢中だった。 染地の用水路探索

地元生まれの榎本氏を案内役に明治45年生
まれの叔父さんが描いたという絵地図を確認
しながら、布田崖線下に流れていた水路「根川
に続く道」をたどる。
崖線の上には「牛頭天王」の石碑があ
り(ここから転げ落ちた牛がいたとか。)
その先には昭和の初めまで盛んに栽培さ
れていたわさび田跡も見られた。現在の
根川は朝日マンシヨンのところから突然
顔を出しており、ほとんど水はない。
そこから南へ下り千町耕地(現在の狛
江市西和泉、染地・多摩川、府中へ続
くあたり)と呼ばれたあたりを歩いて、
不動の森と呼ばれていたエノキを見な
がら多摩川団地が出来る前の田んぼの
風景などを伺った。残念ながら絵
地図に描かれていた「こぼし堀」
や「くぼたのたまり」などはあど
かたも無く確認ができなかったが、
第3中学角のドンドン橋があった
と思われるところにはいまでも西
へ続く水路跡が残っていた。(レポート 鍛冶)



調布の里山 その③

満開のホトケノザ

3月下旬、稲が刈り取られたあと
のさびしい田んぼも春の兆し。
冬の間、農家ではワラを使った縄
ないは大事な仕事でした。「田んぼ
の学校」も縄ない体験をして3月9
日が卒業式でした。
田んぼのあぜには紫色のホトケノ
ザや七草でいうところのホトケノザ
(コオニタビラコ)が花ざかり。
雑木林のあたりもノビルなど春の
草たちが青々してきました。3月末
日、野草園前の斜面のカタクリもみ
ごとに花盛り。



柵に囲まれ 守られているカタクリ

湧き水で栽培 されているセリ▷

若葉緑地の会

■2月9日(日) 参加者2名

前日に降った大雪で参加者も活動見合わせたようでした。

緑地内を見て回ったが倒木はなく、雪の深さが25〜30センチに達しているところがありました。



■3月9日(日) 参加者13名

気持ちのよいお天気とほぼ全員参加で緑地内が賑わいました。

最初林内、外のごみ拾いではじまり、2月の2回目の雪で折れた常緑樹の整理、草取り、落ち葉集めをしたあとハランの葉を掻き分けて地上すれすれに咲く花を観賞しました。

また桜広場付近にキラソウ、たちツボスミレやジユウニヒトエの株がたくさん見られました。(神園)

ハランの花



カニ山の会

■2月8日(土)

雪のため活動は中止。

■3月8日(土) 晴れ 参加者6名

2月15・16日は例年になく大雪でトウネズミモチの枝が折れており、その処理を行いました。

また大きなシユロを伐採し、生長点を確認するため根元と少し上の2か所切断してみました(不明でした)。このシユロは再び伸びてくることはないのでしょうか。

最後に助成金で購入した引き出し型ボツクスに道具を整理し、さっぱりした気分で作業を終えました。

◆3月21日(金) 晴れ 参加者14名

「春の雑木林を楽しむ」イベントの開催

一般参加者7名+スタツフ6名+講師1名
暖かい陽ざしの下、竹を切り出してシャベルとコップ作りをしたあと、そのシャベルで野草の掘り起し。茹でたり、天ぷらにしたり、と充分春を味わった後はカニ山を一回りして虫探し。暖かくなったと言っても虫たちがでてくる時期には少し早く、腐りかけた太い木をどけてみると、カブトムシの幼虫が丸まっていた。

幼児連れのお母さんや70代の男性、と参加者の年齢はまちまちでしたが、それぞれに春の雑木林を満喫できたようで若いお母さんからはとても良い経験ができた、と感謝のお便りが届きました。(活動報告より)



野草料理の下ごしらえ



カブトムシの赤ちゃん見つけた

若葉の森3・1会

2月2日(日) 曇り時々雨 参加者8名

第1緑地、第2緑地で、竹・シユロの整理・ゴミ拾い、落葉かきを行いました。

なお、作業の前に、市有地となり間伐・下刈り後の第4緑地(仮称)の状況確認(写真)。第4小学校を見下ろす崖線の樹林地。集積された粗大ゴミは市に依頼し後日撤去。今後の管理方法が課題。3月末に桜が開花。

3月2日(日) 曇りのち雨 参加者2名
2月8・15日の大雪により折れた枝は処分済。第1緑地でゴミ拾いと、市提供の高枝切り用ノコギリで高枝切落し(写真)。途中で雨となり作業中止。

■第5回環境学習交流会(2月16日〜21日)に参加し、ポスター展示で活動紹介。

■調布市「崖線樹林地保全活動協働事業合意書」を締結。(N&K)



交流会展示



雪害枝折れ



竹の伐採



第4緑地



第4緑地ゴミ



高枝切り

入間・樹林の会

2月16日(日) 晴れ 参加者7人

雪のため作業できず、野鳥観察会

前日の子ども野鳥観察会を雪のため中止にしたが、降雪のため保全作業ができないので、メンバーの野鳥観察会を実施。講師は日本野鳥の会会員の里さん。双眼鏡の使い方、ピントの合わせ方などを詳しく教わってよかった。冬芽の観察、高木の葉っぱの観察にももつと活用したいとの声があった。残念ながらじっくり観察できた鳥は少なかったが、はじめにカワラヒワをよく観察できた。他にキジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、メジロ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ。ウグイスとシメは声のみ。



3月16日(日) 晴れ 参加者7人

林内巡回のあと、ツバキの森で2月の大雪で折れた枝を集め、そだ柵をつくった。晴れていて気持ちよく作業ができた。大きな木が雪の重みで折れていて自然の脅威を感じた。(安部)



ヤブツバキ



↑雪で裂かれたシラカシの幹



ツバキの森で折れた枝集め作業

—虫好きのつぶやき—



虫の旅

よく晴れた朝、愛猫に誘われて2階のベランダに出てみると、ベランダの床に1cm位の黒っぽいものが落ちていた。(ゴミ?) よく見ると、ナント! チョウの幼虫! それも「アカボシゴマダラ」か「ゴマダラチョウ」の。

昨年秋、50cmほどの庭のエノキにこの幼虫が発生し、葉っぱを食べながら成長していた。その後この「店子」たちは落葉と同時に姿を消した。本によると冬の間は落ちたエノキの葉裏で冬眠し、春の芽だしと共にエノキに上ってくるのか。さればわが「店子」たちとも春まではお別れと思っていた。しかし、このエノキの場所は風が強く、気付くと落ち葉はどこかに吹き飛ばされてしまっている。「店子」たちも風に吹かれてどこかに行ってしまったのだらうと寂しくあきらめていたのだが。

ベランダで発見した幼虫は、死後まだそれほど時間がたっていない様だ。もしかして生き返るのではないかと、あわてて庭のエノキの根元に返しに行ったが、動き出す気配は全くない。せつかく寒い冬を、冷たい雪を耐えてきたのに。一体全体どうしてこんな所にやってきたのだらう? 冬越しする所を探して2階まで旅をし、植木鉢の陰で寒い冬を過ごしていたのだらうか? それとも暖かきで目を覚まし、エノキの葉っぱを探して2階まで登ってきてしまったのだろうか? いずれにしても幼虫にとつては長い長い旅だ。旅の結末がこんな事になって残念だが、恐らく、この季節、いたるところでこんなドラマが展開しているのだろう。今年の冬は例年になく雪が多かったから春を迎えられなかった虫たちも多いかもしれないが、野川を歩けば越冬の未傷んだ翅で飛び回るキチョウやキタテハを数多く見る事が出来る。春は地球のエネルギをより身近に感じられる季節だ。さあ、私も動き出そう!

カニ山の会 中原彰子

調布 DE 摘み草

野草は「これも食べられるの?」という驚きがあります。が、シユウ酸を多く含む物をたくさん食べるのはご法度です。ドクゼリなど、絶対食べてはいけない物もありますので、充分な注意が必要です。写真は先日カニ山の会で食べたもの。他にタンポポ、ナズナ、ハルジオンなども美味しくいただきました。



フキノボル ハコベ



ノビルのぐるぐるこんな風に結んで天ぷらに! 根っこの玉は生でも焼いても酢味噌がおいしい。



秋に見た幼虫 ゴマダラチョウ?



3月カニ山にいた幼虫 アカボシゴマダラ

若葉の森から ギンラン その後



3月22日



2月8日



昨年12月6日

昨年12月には、まだ裂けていない果実も多く、緑色でした。2月の大雪にも何とか耐えているようでした。しかし、3月下旬には倒れていて、果実も縦に裂けています。昨年4月末頃に姿を見せてから11カ月。地上部は役目を終えたわけですが、ギンランは多年草ですから地下茎は生きています。また果実が裂けて散布された小さな小さな種子のうち何粒かが共生菌のサポートを得て、新たな命に成長しつつあるかもしれませんね。(大村)

ちょうふの自然 みつけた!

メーリングリストより



カワツザクラ

◆2/25 野川沿いを通ったところ、調布警察署東(野川左岸)のサクラが咲いてました。2010年の写真を見たところ、寒かった今年はずいぶん1週間遅れたようです。野川にはまだ残雪がありました。◆3/13 昨日、自宅の庭でキチョウ(多分キタキチョウ)に出会いました。今年初めてです。成虫越冬のはずなので、昨日の暖かさに冬の眠りから覚めて出てきたのでしょうか。もう啓蟄も過ぎましたからね。あの雪の間はどんな所で寒さに耐えていたのでしょうか。(SN)

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 4/20 (日) 9:30 ~ 12:00
- 5/18 (日) 9:30 ~ 12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 4/12 (土) 10:00 ~ 12:00
- 5/10 (土) 10:00 ~ 12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 4/13 (日) 9:30 ~ 12:00
- 5/11 (日) 9:30 ~ 12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 4/6 (日) 9:30 ~ 12:00
- 5/4 (日) 9:30 ~ 12:00

先の4つの活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

5月10日(土)アースデイ・調布

ちょうふ環境市民会議もブースを出展。様々な団体の活動紹介やエコライフのすすめ。

またこの自然だより刊行のため寄付下さった方には楽しいエコグッズプレゼント!

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋さんなど。置き場所&応援カンパ募集中です!

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆